

大谷學報

第六十三卷 第二号

昭和五十八年九月三十日発行

「比良山古人靈託」と善念・性信……………坂東 性純	(1)
宗教学の二基本問題……………堀尾 孟	(14)
——宗教哲学への途上で——	
天正寺の創建・中絶から大仏造営へ……………大桑 齊	(29)
——天正期豊臣政権と仏教——	
権徳興の贈婦詩について……………河内 昭円	(43)
真下飛泉研究……………佐々木正昭	(60)
——修道校時代の真下飛泉——	
昭和五十七年度 特別研究員 研究発表要旨……………	(75)
彙 報……………	(90)

大 谷 大 学
大 谷 学 会

大谷学報 第六十三卷 第一号

社会学における社会関係論の展開……池田 義祐

プラトン『エウテュデモス』に

おけるプロトレプティコス・

ロゴスとエリスティケ……箕浦 恵了

外国語教授法の分類について……市橋 弘道

——ディラーの所説を中心に——

昭和五十七年度 修士・卒業論文題目一覧

昭和五十七年度 寄贈交換誌目録

学位論文審査要旨

アビダルマ教義学の一局面……宮下 晴輝

——『俱舍論』から

『釈軌論』への展開例——

大谷学会編

大仏教研究
大谷大学研究年報

総目録

仏教研究(第一巻第一号～第八巻第四号)

大谷学報(第九巻第一号～第六十巻第四号)

大谷大学研究年報(第一集～第三十三集)

に掲載された論文、書評、講演要旨などを収録

〈論文目録〉真宗学／仏教学／哲学／社会学／教育学／
心理学／史学／文学／法学・政治学／図書館学／自然科
学／保健体育学。

春季公開講演要旨／秋季公開講演・研究発表要旨／書評
／新刊紹介／追憶・年譜など。巻末に執筆者索引を付す。
(A5版・一二六頁・一九八二年七月刊・八〇〇円)

THE OTANI GAKUHO

(THE JOURNAL OF
BUDDHIST STUDIES AND HUMANITIES)

CONTENTS

Articles :

- Reference to Shinran's Disciples Zennen
and Shōshin in the *Oracle of the Old Long-nosed
Goblin of Mount Hira*.....Shōjun Bandō (1)
- Ein Grundproblem der Religionswissenschaft.....Tsutomu Horio (14)
—auf dem Wege der Religionsphilosophie—
- From the Construction and Abandonment of the
Tenshōji to the Building of the Daibutsu.....Hitoshi Ōkuwa (29)
—the Buddhist Policy of the Toyotomi
Regime during the Tenshō Period—
- On Ch'uan-te-yü's (Quan-de-yu) "Verses to
a Lady"Shōen Kawachi (43)
- A Study on Mashimo Hisen.....Masaaki Sasaki (60)
—In His Shūdo Elementary
School Days as Principal—

Miscellaneous

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY
OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

大谷学会規程

第一条 大谷大学に大谷学会を置く。

第二条 本会は真宗学・仏教学・哲学・社会学・史学・文学、その他の學術研究と発表をおこなうことを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するため、左の事業をおこなう。

一、季刊「大谷学報」の発行

二、「大谷大学研究年報」の発行

三、研究会及び公開講演会の開催

四、その他必要なる事業

第四条 1、本会は大谷大学大学院・文学部並びに短期大学のすべての教育職員及び学生をもって会員とする。

2、前項のほか、本会の趣旨に賛同し、役員会において承認されたものは、会員となることができる。

第五条 本会に左の役員を置く。

一、会長

二、委員

三、監事

第六条 会長には大谷大学学長が当り、会務を統理する。

第七条 1、委員は十名とし、教授会において互選する。

2、委員は企画・編集・出版等の会務を掌理する。

3、委員の任期は二年とする。但し再任をさまたげない。

第八条 1、監事は二名とし、教授会において互選する。任期は二年とする。

2、監事は本会の会計を監査する。

第九条 会員は本会の出版物にその研究を発表し、「大谷学報」並びに「大谷大学研究年報」の配布を受け、本会主催の会合に出席することができる。

第一〇条 会員の会費は年額金四千円とする。但し、学生会員は貳千円とする。

第十一条 1、本会の経費は会費をもつてこれに当てる。

2、本会の必要経費については、助成金を受けることができる。

第十二条 本会の事務は、教務課の所管とする。

第十三条 この規程の改正には、教授会の議を経なければならない。

附則 1、この規程は昭和五十六年四月一日から施行する。

2、昭和三十七年四月一日施行の「大谷学会会則」はこれを廃止する。

大谷学会役員

委員 岩見 至 大竹 鑑

大屋 憲一 小川 一乘

高橋 憲昭 寺川 俊昭

名畑 崇 広瀬 英一

箕浦 恵了 山本 唯一

昭和五十八年九月三十日発行

大谷学会

編集兼 大谷学会 福 島 光 哉

印刷者 西 村 明

京都市北区小山上総町
大谷大学内

発行所 大 谷 学 会

振替 京都 一八三九三番
電話 (〇七五) 四三二一三三一代
郵便 番号 六 〇 三

大谷大学研究年報 第三十四集

紀元前六世紀後半期スパルタの

対外政策……………新村祐一郎

ツォンカバ造了義未了義論の試解(一)……片野 道雄

——チベット仏教の唯識受容に
ついての一性格——

二つの自由論……………堀尾 孟

——シェリングの『自由論』と
西田幾多郎の『自由意志』(一)——

我が国における

相撲の発生に関する研究……………山田 知子

婦人研究者の現状と問題……………松村 尚子

——実態調査結果を中心にして——

大谷大学研究年報 第三十五集

中世職人語彙の研究……………山本 唯一

無我の問題……………桜部 建

——ニカーヤの範囲で——

親鸞の声字観……………大門 照忍

教育学の生成期における

フィヒテの教育論の意味……………土戸 敏彦